

# 考える楽しさのある漢字学習のあり方とは

## 語彙を広げ表現を豊かにする漢字学習へ

大阪・堺市立大仙小学校

漢字の活用方に  
学力向上推進委員会を  
立ち上げ、宿題や家庭  
学習のあり方を議論し  
てきた。漢字学習も見  
直し対象の一つで、  
習った熟語をどのよう  
な意味でどのような  
文の中で使うのか、子  
どもたちに意識させる  
ことが課題だった。機  
械的な繰り返しの学習  
は、せっかく覚えたも  
文章の中で漢字を活用  
する力につながってい  
なかつた。山口陽平  
主幹教諭は振り返る。  
同校は一昨年度から

「人を思いやる心豊  
かな子、聴き合い学び  
合う」に喜びを感じ  
る子、しなやかな心と  
体の育成」を学校  
教育目標とする堺市立  
大仙小学校(原宏江校  
長、児童数477)。特に  
「学び合う」に重点  
を置き、人の話を聞き  
自分の考えを述べるこ  
とを通して探究的な学  
びにつなげている。

「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。漢字のとびらを踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。漢字のとびらを踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。

「漢字のとびら」を踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。漢字のとびらを踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。

## 漢字学習は繰り返すから、 考えて覚えるへ

新たなコンセプトのもと、明星大学教授(元筑波大学附属  
小学校教諭)の白石範孝氏らが企画・監修した漢字学習帳  
「漢字のとびら」は、発刊から4年目を迎えた。「主体的・対話  
的で深い学び」の視点からの授業改善が求められる中、思考  
力や判断力、表現力を育み、家庭学習を促す教材として注目  
される。今年度導入した2校を取材した。



国語係の作った漢字問題に挑戦

## 漢字学習を通して 自ら学び取る力を育む

広島・福山市立西小学校

教材の全面見直しで  
今年度より導入  
福山市立西小学校  
(小島八重校長、児童数  
419)は「主体的に学  
ぶ児童の育成を学校  
教育目標に、授業改善  
を進めている。  
思わず考えなくなる  
環境や課題提示、発問  
を用意し、自由な発想  
で考える▽表現方法を  
工夫する▽繰り返し挑  
戦する▽優しい気持ち  
で相手を思う▽児童

の育成に努めている。  
国語や他の教科におい  
ても「子ども同士で  
学び合う」の中で、わ  
かった、おもしろい  
という感覚をたくさん持  
てるような授業を目  
指している。研究主  
任の岡川知笑教諭は  
話す。  
今年度、市の方針で  
新学習指導要領の実施  
に伴い各校で全面的に  
教材の見直しが行われ、今年度から全学年  
で「漢字のとびら」を採

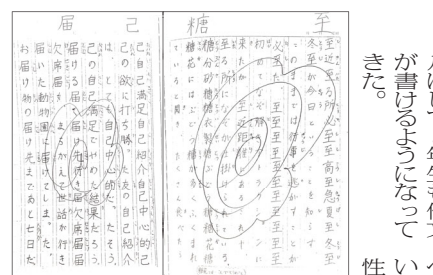
用することにした。主  
体性の育成を目指す  
うえで、教材において  
も自ら考えて取り組  
む必要な学習を選  
び取るような構成が  
適していると考えたか  
らだ。  
現在は国語科や、5  
校時の前の帯時間学  
びエイトで「漢字の  
とびら」を活用中だ。  
全学年で同じ教材を用  
いることで、漢字のど  
こをどのようにつな  
げて書けるか、どの  
教員の意識統一が図れ  
たという。

「漢字のとびら」で効  
率的に漢字を学び、読  
解力を高める活動に  
はじけて、時間を充  
てられる。そんなメリ  
ハリのある授業が実現  
していた。  
漢字のとびらを使い  
始めてから、子ども達

岡川知笑教諭、小島八重校長、菊石香織教諭



1文字を丁寧に書くようになった



覚えた漢字で作文を書く宿題

「漢字のとびら」の  
家庭学習の様子も変  
わってきたという。6  
年1組では、漢字練習  
帳に漢字をフリスビー  
10回書いたらミニ表彰  
券を貼るという。その取  
組みが「漢字のとびら  
を使うようになり、  
正しく書く意識が高  
まった」と担任で教務  
主任の菊石香織教諭  
は話す。練習帳の提出  
前に子ども達が互い  
に見せ合い、確かめる  
姿も見られるように  
なった。  
3年生も同じだ。漢  
字のとびらには、新し  
い漢字を覚えるときの  
ポイントが示されてい  
るがそれと同じ形式  
で家庭学習ノートに漢  
字練習をする子どもが  
増えた。1組担任の岡  
川教諭は「無心に繰り返  
し写すのではなく、注  
意して書くという意  
識が持てたのは大き  
な進歩。漢字のとびら  
が、学びのよい参考  
になっている」と、家庭  
学習への好影響も指摘  
する。  
一斉休校が延長され  
る直前の4月第一週に  
「漢字のとびら」を配付  
し内容を説明や、使い  
方を伝えられたもの今  
につながっている。休  
校中、自宅で漢字の予  
習をした子どもも多  
く、その時から、考え  
て自分で学ぶ態度を  
育むことができた。

「漢字のとびら」を踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。漢字のとびらを踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。

「漢字のとびら」を踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。漢字のとびらを踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。

「漢字のとびら」を踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。漢字のとびらを踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。

「漢字のとびら」を踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。漢字のとびらを踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。

「漢字のとびら」を踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。漢字のとびらを踏む  
「漢字のとびら」を学習  
に活用することとなっ  
た。

富尾康彦教諭、山口陽平主幹教諭

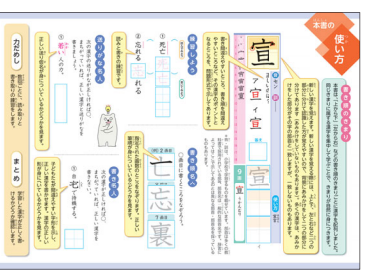
「考える」ことを大切に、楽しく漢字を学ぶ。

白石式考える漢字学習帳

## 『漢字のとびら』



「きまりがみにつく漢字のとびら」小学1~6年生:年間1冊/定価 各850円(税込)

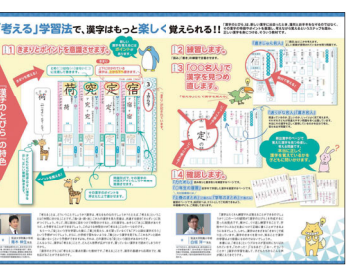


白石 範孝 明星大学教授(元筑波大学附属小学校 教諭)  
『考える』楽しさを新しい漢字学習帳で  
「国語は好きだけど漢字は嫌い」という声をよく耳にします。  
漢字学習は、「お手本を見て繰り返し書いて覚える」という方法が一  
般的です。  
しかし、漢字にはさまざまな「きまり」があります。漢字のきまりを理解  
し、活用することで繰り返し書かなくても漢字は正しく覚えられます。  
『漢字のとびら』では、漢字のきまりを知り、書き順や間違えやすいと  
ころを児童に意識させてから書かせます。さらにひとつの漢字を見て、  
正しいか、正しくないかを自分で判断し、正しくなければどこが違うの  
かを、明確に指摘できるように問題を設けました。自分で「考える」学  
習、「考える」活動を大切に、漢字を楽しく学べるようにしたいと願  
ってこの教材をつくりました。

青木 伸生  
筑波大学附属小学校 教諭  
漢字を通じた「思考のプロセス」が身に付  
くと、子どもたちは正しく書いて他の漢字  
との共通点が見えてきます。漢字を見る目  
は考える力につながります。  
白坂 洋一  
筑波大学附属小学校 教諭  
漢字のきまりを見つけ、知ること漢字  
の学習はより容易になります。「わかった!」  
「そうか!」こんな声が、子どもたちから漢  
字の学習を通して聞こえてきそうです。



「漢字のとびら」小学1年生:年間1冊、小学2~6年生:各上下巻/定価 各460円(税込)



※本教材は、光村図書出版の国語教科書を参考にして作成しています。  
※各学年、上下巻ともに「確認テスト」をHPにご用意しています。ご利用の際は専用のID、パスワードが必要です。